

# 楽楽国土・楽楽九州を建設しよう！

みなさん たいへんな不況ですね 日本は。

構造改革の痛みは、失業や収入の低下などで、北風が吹くに似て、財布の紐は固く閉じられるだけ。一方で、ハローワークに列をなす多くの希望のない人びとを生んでいます。消費は上向かず、デフレが進行し、GDP が上向いても海外への輸出依存型では輸入は増えず、円高が進行します。

そこで、需要創出が必要なわけですが、財政出動等もさることながら、どうも根本的なところからはじめないとだめな気がします。私のふるさとの田舎を念頭に置いて話しますが、たとえば、日常的な魚釣りは、そもそも川が汚れてだめになり、森の中でするメジロ鳥も原則禁止。ゴルフも大衆化したとはいえ、子どもなどには縁がない一部の人びとの遊びです。パチンコ？ 居酒屋での酒飲み？ 読書？ テレビ？ 本当に楽しんでいるのでしょうか？ 少なくとも私にはわくわくするような楽しいものはまるでありません。

戦後半世紀をかけて私たちは高度な文明社会を構築してきました。主として生産系の充実を図るものでしたが、同時に結果として、人が管理される社会を指向するものでもありました。生産のために人が従属した社会！ 社会のための経済ではなく経済のための社会に成り下がっているのです。その結果なのかどうか、私たちは、楽しむ心と楽しめる国土を喪失してきたように思います。（この両輪を備えることを楽楽国土と称しましょう）

タイの夜空のもとでの夕食の楽しさ、美しい花で飾られた街角、花や植物をふんだんに配置したホテルや空港ロビーの華やかさ。パリ・セーヌ川の橋を船上から見る楽しさ。ベルギーの町広場の鐘楼の音楽の荘厳さ。岸辺の飾りつけの可愛さ。町々の街路上での語らいの楽しさ。それらは矛盾に満ちた喧騒であったりするのですが、それがかえってほっとする楽しさをかもし出しているのです。太平洋の島々で、海に飛び込んで遊ぶ子らの輝く瞳をみるにつけ、彼らのほうが、幸福度は日本の子どもたちよりずっと上だと思わざるを得ないのです。そこには、人が主人公としての姿があります。

それにひきかえ、成田に降り立つとき、寒々とした蛍光灯に迎えられるわびしさから、ああ日本に帰ったのだな、と実感するのです。黒々とした頭が黙々と地下鉄の階段に消えていきます。明日の出勤は午前10時か、などと思い浮かべながら…。

かつての日本は、小泉八雲の日本評価を例示するまでもなく、優美の帝国でしたし、国民はこの世を楽しむ天性を有していました。いまや生産系に隷属する日本人。敗戦時に決

意した、経済的な優位性を目指すところに端を発していますが、多くの犠牲を払い失ったものも多かった。そのひとつが楽楽国土の喪失です。経済的には大変な成果を挙げた今、ここで主従の逆転をはかり、その回復に努めるべきと思うのです。

すなわち、再び、楽楽国土を創出するのです。それがわが国最大の潜在需要です。その創造は、現在の不況を乗り切る手段でもありますが、日本人の基本的な幸福度に密接に関係しています。さらに、楽しむことを通してこそ、特に子どもたちの創造性が培われます。創造性の涵養こそが知価社会となる今後の日本の針路を左右するといっても過言ではありません。

日本列島は大陸と異なり、生態的には生命に溢れた大国です。四季、海洋、山脈、降雨、この四つがわが国の他に見られない素晴らしい国土条件です（もちろん災害列島の元凶でもあるのですが…）。それが、日本人の学びの場、豊かな創造性の源泉です。しかしながら、極端な大都市集中は、（私たちの魂を培った）風性の喪失をはじめ、情けないほどの見苦しさ、歩きにくさ、危険、看板の乱立等から多くの矛盾をだいたすう n 尾国民に露呈し、一方、伝統的な、いわゆる地方において、荒れ果てた里山、中心部の空洞化、川の汚れなど、総じて、楽楽国土から遠ざかってしまいました。

楽々国土を創造してそれらを回復しましょう。第二次大戦後、フランスでは、公共事業費の 1 パーセント相当を文化的な分野に追加投資する『1 パーセントシステム』が進められ、芸術家による橋の欄干などの美化が進み、あわせて芸術家の活動支援ともなりました。

それに習って、楽楽国土の創造を、国家が認知する職業人として育成し、全国津々浦々で、その運動を展開しましょう。具体性はありませんが、次のような事業から開始して、九州から全国に発信したいものです。

1. 交流会等による楽しみ方の研究
2. 創造的景観の募集・設計と施工
3. 街中における音楽・絵画・各種趣味等による賑わいの創出 ect.
4. 庭師、活花、大道芸人、小鳥飼いの名人等、楽楽国土のマイスターの表彰

